

「生活Can do」について

生活Can do

「生活Can do」は、国内に在住する外国人（「生活者としての外国人」）が日常生活において、**日本語で行うことが想定される言語活動を例示**したもの。
「日本語教育の参照枠」に示された分野別の**言語能力記述文（Can do）**の一つ。

対象となる範囲

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について（平成22年5月、文化審議会国語分科会）に示される「生活上の行為の事例」

生活上の行為の事例	I	健康・安全に暮らす	VI	働く
	II	住居を確保・維持する	VII	人とかかわる
	III	消費活動を行う	VIII	社会の一員となる
	IV	目的地に移動する	IX	自身を豊かにする
	V	子育て・教育を行う	X	情報を収集・発信する

レベル

A1～B2

言語活動

聞くこと、読むこと、やり取り、発表、書くこと

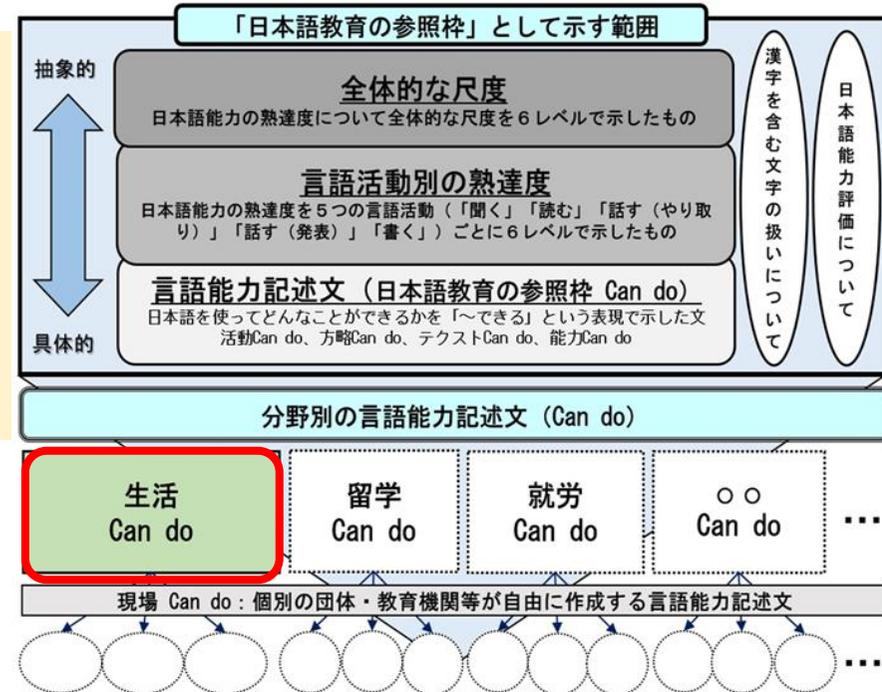
例

<やり取り・A1・会話>

日本語教室や国際交流のイベントに参加し、初めて会った人に、名前、出身、仕事などを尋ねたり、答えたりすることができる。【IX自身を豊かにする】

<読むこと・A2・情報や議論を読むこと>

地域などで発行している、外国人向けの防災パンフレットなどの短い簡単な文を読んで、避難所の位置や準備しておいた方がいいものなど、いくつかの情報を理解することができる。【I健康・安全に暮らす】

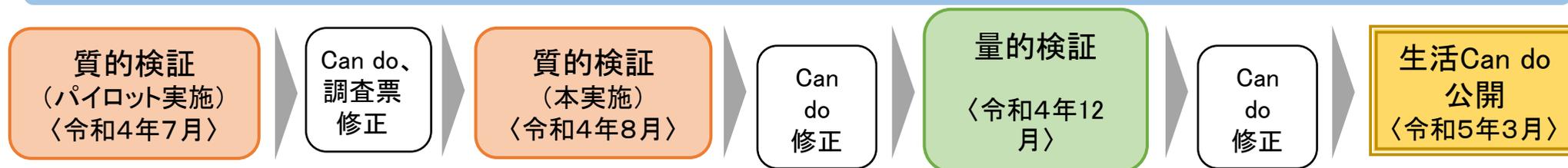


検証の目的・流れ等

【検証の目的】

- ◆ 生活Can do(案)の各Can doについてレベル尺度の妥当性の精査を行う。
- ◆ 検証の結果を踏まえ、各Can doのレベルや表現等を修正する。

1 検証実施の流れ



2 検証の内容

質的検証(パイロット実施・本実施)

- 【対象】日本語教師(パイロット:20名、本実施:約100名)
 【方法】Can doが示すレベルや表現の分かりにくさ等を尋ねた。
 【分析・修正】レベルの齟齬や表現が不明瞭な点等を洗い出し、修正を行った。

【調査内容】

調査項目となっているCan do(合計100)について、主に以下の点について回答。

- ① Can doのレベル
- ② ①のレベルの判断の根拠となった表現等

量的検証

- 【対象】日本語学習者(約800名)
 【方法】
 ・質的検証結果に基づき修正を行ったCan doを提示。
 ・「日本語でできるか」を4段階で尋ねた。
 【分析・修正】
 ・回答結果を統計的手法を用いて処理し、Can doのレベル尺度の妥当性について検証を行った。
 ・結果に基づき、レベルの齟齬について修正を行った。

【調査内容】

調査項目となっているCan do(合計100)について、日本語でできるかどうかを回答。

利用にあたっての留意事項

- ① あくまでも例示である。
 - * 具体的な提示に努めたものの、網羅的なものではない。
 - * 適切な項目がない場合は、新たなCan doを作成してもよい。

- ② どのような項目を扱うかは、状況に応じた判断が必要である。
 - * 日本語でできるようにならない行為の一覧ではない。
 - * 防災や医療等、安全や生命に関連する項目については多言語による情報提供が望ましい項目も含まれている。

- ③ 「生活 Can do」を活用した学びは、多様な学びの一部である。
 - * 日本語学習はCan doで示した言語活動のみで進められるものではない。
 - * 異文化に対する気付きなど、ポートフォリオを活用した振り返り活動を通して促進される学びもある。